

夢高原かっつとび伊吹 2022

ありがとうー！かっつとびファイナル大会

第1回大会から携わる2人 かっつとび伊吹への思い――

1987年から行われてきた夢高原かっつとび伊吹は、伊吹山が獣害や大雨の影響により、長期的な整備が必要となったため、ランナーの安全を考慮し36年の歴史に幕を下ろしました。

8月28日に最後となった「夢高原かっつとび伊吹2022」ありがとうー！かっつとびファイナル大会が行われ、総勢503人の参加者がラストランを楽しみました。

全国の人に伊吹山を訪れてもらいたい、夏のお花畑がすごく綺麗なので、そこを走ってもらいたい、そういうみんなの思いが1987年開催のきっかけになりました。

第1回大会では、72名のランナーが参加し、山頂を目指して駆け上がりましたが、レース会場が山の上ということもあり、多くの人手に頼り、大変な大会となりました。

かっつとび伊吹が36回も続いたのは、多くの人が力を貸してくれたからだと思っています。本当に感謝しています。

かっつとび伊吹を成功させるために、春から仲間たちと準備を始め、意見を出し合い絆を深めてきました。当日は多くの地元の方々に支えられ、本当の手作り大会をやってきたんだなと感じましたし、私もよくやってきたなと、すごく誇りに思います。

今後はスタッフたちとの絆を大切にしながら、なるべく同じような形で再開できることを期待し、地域のイベントを頑張っていきたいと思えます。

伊吹山の現状

登山者の集中利用に豪雨が重なって、大雨の日には登山道が川のようになり、えぐれた状態が激しくなっています。

【写真①】

急増する鹿が草を食べつくし、斜面を踏み荒らして、そこに豪雨が降り、大量の土砂が流出しています。

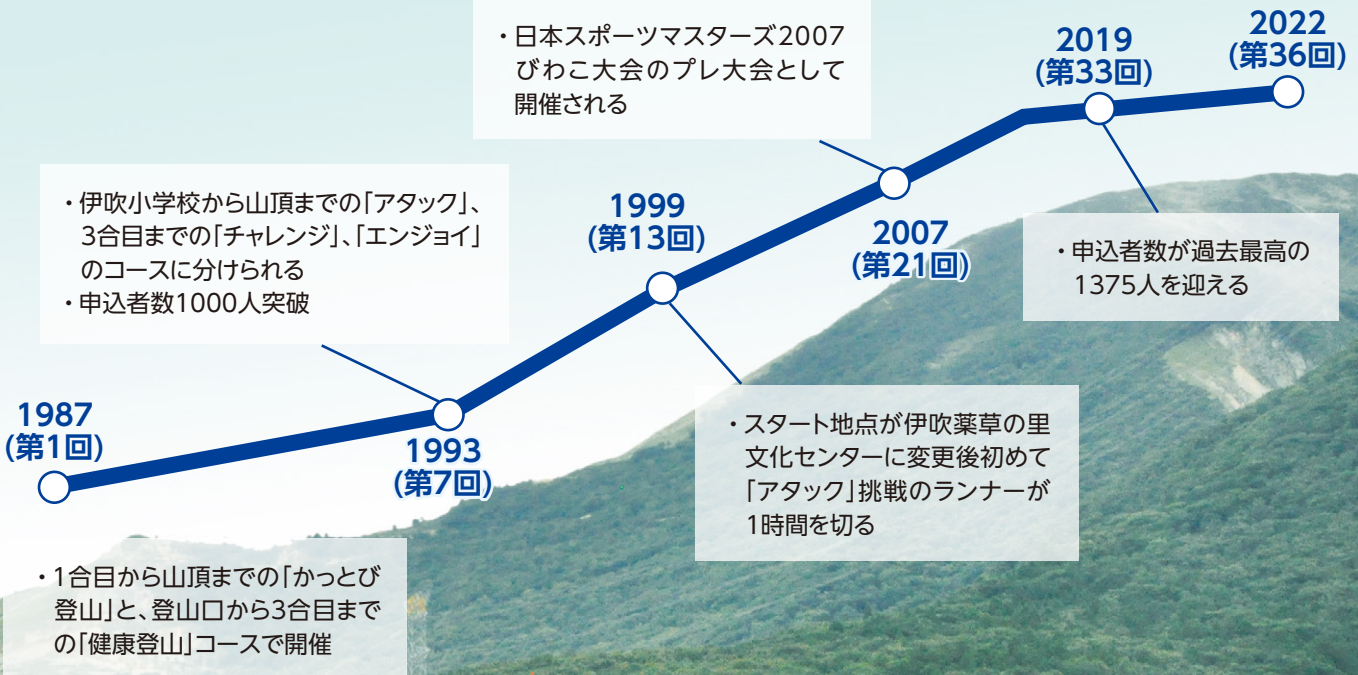


夢高原かっつとび伊吹成功委員会 委員長
ますもと 収治さん



夢高原かっつとび伊吹成功委員会 競技部長
たかぎ きよふみ 高木 清文さん

夢高原かっつとび伊吹の歴史 1987年～2022年



参加者インタビュー！

15回参加したランナー



伊吹山は家からよく見える山で、伊吹へは30分かけて練習をしに来ていました。今年は登山道が荒れているので山頂まで行くのは厳しいかなとは感じていました。ラストの大会というのは残念ですが、無事完走できて嬉しかったです。

5回参加したランナー



入賞できず悔しい思いで帰ったり、くたくたになりながら山頂で着替えて、ドライブウェイをみんなで喋りながら帰ったり、様々な思い出があります。その時に友達になった人とは今でも交流があり、かつとび伊吹は思い出深い大会です。



市政言



ありがとう!かつとび、ありがとう!伊吹山

伊吹山の魅力発信を目的に始まった「かつとび伊吹」は、これまで36回にわたって開催(うち5回は荒天とコロナ対策のため中止)され、大自然を体感できる夏の恒例イベントとして愛されてきました。

これほど長きにわたり開催できましたのは、全国各地から参加いただいた3万人を超えるランナーをはじめ、1万人もの熱意あるボランティアスタッフや地域住民の皆さまなどの御理解と御支援のおかげであり、厚くお礼申し上げます。

残念ではありますが、近年の獣害や大雨などにより山肌の荒廃が進み深刻化しているため、今大会をもって終幕を迎えることとなりました。

ボランティアスタッフや地域の方々などの声援を受けながら、標高1377mの伊吹山の山頂を目指す当大会は、参加されたランナーの記憶に残るスポーツイベントとなったことと思います。

コロナ禍の中で大会を成功裏に終え、有終の美を飾ることができましたことに対し、改めて感謝申し上げます。ありがとう!かつとび、ありがとう!伊吹山、ありがとう!皆さま! !

米原市長 平尾 道雄

思い出写真



1996年 ゴール直前の様子



1997年 エンジョイの部
(3合目までの散策コース)



2005年 スタートの様子



2022年 集合写真



2009年 ゴールの様子